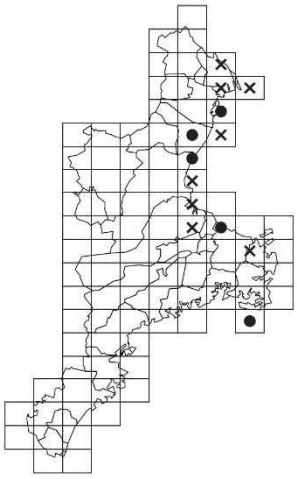
コアジサシ（チドリ目カモメ科） *Sterna albifrons*	三重県：絶滅危惧 IA 類（CR）	環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由：　既知の生息地点数は 10 程度であるが，自然の繁殖環境がほとんど失われている．

種の概要：　夏鳥．全長約28 cmの小形のアジサシ．体の上面は青灰色で，下面は白色，嘴が黄色で先端が黒い．脚は橙黄色．体が細長く，ツバメのように翼が尖っており，尾羽が二股になっている．夏羽では額が白く，頭上から後頭にかけて黒い．冬羽では，額の白色部が頭頂まで広がり，嘴が黒く，脚が黒か褐色となる．飛びながら，「キリッ　キリッ　キーキー」と鳴く．餌は小型の魚類で，空中から狙いを付けて水中に飛び込み捕獲し，アジサシの名前の由来となっている．広い河原や砂浜などの裸地に集団で営巣し，集団で防衛する．卵とヒナは，砂礫に似た模様がある保護色である．繁殖成功率が高いのは，およそ3 ha以上で植被率約30％以下の裸地に，約500羽以上が集まった場合である．

撮影：林益夫氏

分布：　種コアジサシは，ユーラシアから北アメリカの中緯度地帯で繁殖し，ユーラシア南部，オーストラリア，アフリカ，南アメリカで越冬する．極東の亜種コアジサシは，日本と中国東部，南部で繁殖し，東南アジアからニュージーランドで越冬する．国内では，本州の東北地方南部以南に渡来し，繁殖する．県内では，桑名市，四日市市，亀山市，津市，松阪市，伊勢市，志摩市で記録がある．



現況・減少要因：　約30年前は全国的にも普通に見られる鳥とされていたが，自然状態の場所で繁殖に成功した最近の例は四日市市の吉崎海岸，志摩市和具大島などしかなく，非常に少なくなっている．一方，近年は木曽岬干拓地，四日市市，津市などの工事中の埋立地や裸地で営巣することがまれにみられるのみである．減少要因は，ダムや井堰による河川の土砂流下阻害による河原の減少や海岸浸食により，広い砂礫地が激減したことである．

保護対策：　現在残されている広い河原や砂浜をこれ以上破壊しないこと．海岸浸食の防止は特に重要であり，河口や沿岸の砂州は可能な限り残す対策が必要である．広い河原や砂浜を復元するには，ダムや井堰の撤去か，土砂流下可能なものに改造するしかないと考えられる．コアジサシやシロチドリなどが営巣する河原や砂浜などの裸地は，川の増水や波浪で1年に数回攪乱されることで維持されている環境であり，攪乱がないと草が生え，やがて草原に移行し，営巣ができなくなる．河原の形成や砂州の形成，砂浜の形成など，小規模な自然変化は許容するような河川整備，海岸整備を進める必要がある．具体的には，河川では高水敷は造らず，井堰やダムを統合などにより減らし，また，ダムや井堰からのフラッシュ放流などでの體乱を行うこと．海岸では，松林を過度に植林しないこと，堤防の前面にはハマゴウなどの本来の海岸植物を生育させ，高波による海岸浸食も防止する必要がある．また，川の中州や河口や沿岸の砂州は可能な限り残す必要がある．